

# 里親家庭支援としてのフォスタリングチェンジプログラムの導入と 効果の検証

村山 真一<sup>1)</sup>, 是永 かな子<sup>2)</sup>

1) 高知県地域福祉部障害福祉課

2) 高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻, 高知ギルバーク発達神経精神医学センター

## A Introduction and Verification of Effect of Fostering Change Program as Support for Foster Parents

MURAYAMA Shinichi<sup>1)</sup>, KORENAGA Kanako<sup>2)</sup>

1) Kochi Prefectural Community Welfare Department Disabled Persons' Welfare Division

2) Kochi University Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Professional Schools for Teacher Education, Kochi Gillberg  
Neuropsychiatry Centre

### 要 約

本研究は、イギリスで開発され 2016 年に日本に導入されたフォスタリングチェンジプログラムを高知県で実施し、その効果について検討するものである。2019 年度に高知県において初めて、子どもを受託している里親に対してフォスタリングチェンジプログラムを実施した。これは、プログラムを実施する際に遵守すべきルールに基づいて行われたものであった。プログラムの実施後、受講者である里親からの評価及び 2019 年度に他自治体において実施されたフォスタリングチェンジプログラムにおける受講者の評価との比較により、プログラムの効果について検証を行なった。結果として、2019 年度に高知県において実施されたフォスタリングチェンジプログラムでは、受講した里親の評価は全国平均値と比較しても高く、受講者が問題行動と感じていた子どもの行動が減少したことが分かった。その要因の一つには、事前の家庭訪問を含むきめ細かなサポートがあったことが示された。そして高知県において里親制度を推進していくにあたり、フォスタリングチェンジプログラムは里親の質の向上に資する研修となりうる可能性があることが分かった。

キーワード：フォスタリングチェンジプログラム 里親 社会的養護

### 1. 問題と目的

里親制度とは、さまざまな事情で家族と離れて暮らす子どもを、自分の家庭に迎え入れ、温かい愛情と正しい理解を持って養育する制度である。里親家庭に委託されている子どものうち、20%以上が障害のある子どもであり、このことを踏まえれば里親となろうとする者は障害に関する知識やケアの技術の習得が必要であると考えら

れるが、里親登録にあたり受講する研修カリキュラムの内容には、障害に関する知識やケアの技術の習得に関するものは含まれていない。そのケアの方法について、イギリスで実践されており、2016 年度に日本においても導入が開始された「フォスタリングチェンジプログラム(以下、「FCP」という)」の高知県での導入についての検討を行ってきた<sup>1)</sup>。

本研究では、2019 年度に高知県で初めて里親家庭に対して実施した FCP について、その効果についての検証を行うものである。

## 2. 方法

高知県において FCP を実施し、FCP の効果検証を行うとともに、継続的に実施するための方策について検討する。

## 3. 結果

### 3.1 FCP の概要

2019 年度に高知県で実施した FCP の概要は表 1 のとおりである。なお、運営は里親家庭サポートセンター結いの実（高知聖園ベビーホーム）が行った。FCP は実施にあたってルールが設けられており、高知県で実施した FCP についてはこのルールに準拠されたものであった。

表 1 高知県における開催の概要と FCP 実施ルールとの比較

項目	高知県における開催の概要	FCP 実施ルール
人員体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者を含むファシリテーター養成講座を受講し、修了証を持つ 2 名をファシリテーターとし、12 回のプログラムに同席した。</li> <li>同じく同養成講座を修了した 1 名がアシスタントとして同席した。</li> <li>なお、筆者以外のファシリテーター及びアシスタントは実施団体の職員であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FCP は、同プログラムのファシリテーター養成座を受講し、修了証を持つファシリテーター 2 名以上で実施するものとする。</li> <li>3 名以上のファシリテーターでローテーションを組んで実施する場合にも、プログラムの一連の流れと受講者それぞれの状況や特性などを把握しておく必要があることから、担当ファシリテーターは、全員原則として 12 回のプログラムに同席するものとする。</li> </ul>
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 週間に 1 セッションずつ、毎週火曜日の 12 時 30 分から 15 時 30 分の時間帯において実施した（表 2）。</li> <li>なお、祝日や受講者の都合に応じて月曜日または水曜日に実施した週もあった。</li> <li>期間中に年末年始を挟んだことから、1 週の休みを設け、延べ 13 週にわたって実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FCP は 1 週間に 1 セッションずつを、毎週固定した曜日及び時間帯で 12 週連続で実施するものとする。</li> <li>ただし、受講者やファシリテーターの負担や都合、祝日を鑑み、ファシリテーターの裁量にて 1 回を上限に休みを入れ、延べ 13 週にわたって実施することも可能とする。</li> <li>なお、台風や地震などの自然災害をはじめとして、事前に予期できない事態が発生し、当初の予定通りにセッションを開催することが困難と判断された場合にはこの限りではない。</li> </ul>
会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>12 セッションすべて高知聖園ベビーホーム北館（高知市）において実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FCP は原則として 12 セッションを同じ会場で実施するものとする。</li> </ul>
費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講生の受講費用は無料であった。運営にかかる費用は実施団体である里親サポートセンター結いの実において負担した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講生の受講費用は無料とし、運営にかかる費用はプログラムを実施する団体が負担するものとする。</li> </ul>
受講者の要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの受講者（4 人）は、養育里親または養子縁組里親であり、いずれも 1 人以上の小学生以下の子どもを受託している者であった。</li> <li>プログラムの受講が始まってから子どもの委託が解除された者はいなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの受講者は、原則として養育里親、養子縁組里親、専門里親あるいは親族里親として、1 人以上の小学生以下の子どもを受託している者に限る。ファミリーホームについては、養育者あるいは補助者のみとする。</li> <li>プログラムの受講が始まってから、子どもの受託が解除された場合については、ファシリテーターと受講者で話し合い、その後の継続受講の有無を決定するものとする。</li> </ul>
初めてのプログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者を含むファシリテーター 2 名は、養成講座を修了後始めて FCP を実施した。2019 年度は、1 回の開催であった。</li> <li>受講者は 4 人であり上限の 10 人以内を満たしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファシリテーター養成講座を終了後、初めて FCP を実施する場合には、原則として半期に 1 回、1 年間に 2 回の実施を上限とする。</li> <li>初めてプログラムを実施する場合には、受講者の上限を 10 人以内とする。</li> </ul>
家庭訪問の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>FCP 開始前に、ファシリテーターが全ての受講者に対して、家庭訪問を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FCP 開始前に、担当ファシリテーターが家庭訪問を行い、FCP の内容を説明して改めて参加意思を確認すると同時に、家族構成や実子の有無、受託している子どもの様子などのヒアリングを行うものとする。</li> </ul>

出典：ファシリテーター養成研修当日配布資料（FCP 実施ルールの欄のみ）

表2 FCP のセッション内容と実施日

	題目	実施日
1	グループを創設し、子どもの行動を理解し記録する	2019年12月3日(火)
2	行動への影響：先行する出来事及び結果	2019年12月10日(火)
3	効果的に褒める	2019年12月16日(月)
4	肯定的な注目	2019年12月24日(火)
5	コミュニケーション・スキルを使い、子どもが自分の感情を調整できるように支援する	2020年1月7日(火)
6	子どもの学習を支援する	2020年1月15日(水)
7	ご褒美およびご褒美表	2020年1月21日(火)
8	指示を与えることおよび選択的無視	2020年1月28日(火)
9	ポジティブ・ディシプリン(肯定的なしつけ)及び限界の設定	2020年2月4日(火)
10	タイムアウトおよび間接的方略	2020年2月10日(月)
11	エンディングおよび総括	2020年2月18日(火)
12	肯定的変化を認め、自分自身をケアする	2020年2月25日(火)

また、実施にあたっては、FCP ファシリテーター養成講座のトレーナーである一般社団法人無憂樹代表・上村宏樹氏にスーパーバイズをしていただいた。

#### 資料1 セッションごとの評価シート

### 3.2 結果の検証

#### 3.2.1 1回目から11回目までの各セッションの評価

結果の検証においては、プログラムに対する里親の評価をもとに行った。

第一にセッションごとの評価として、セッション内の時間を用いて受講者に評価シートへ記入を求めた。評価シートの構成は、各セッションにおける内容(1セッションあたり4~6)について5段階評価(1=悪い、5=とても良い)を行うもの、各セッションで一番楽しかったこと、一番つまらなかったこと、その他のコメントを求めるものであった(資料1)。

各セッションにおける内容についての5段階評価の平均値は表4のとおりであった。

セッション9を除き、平均値が4.5を超えており、セッションの内容に対する受講者の評価は高かったと考えられる。

#### 3.2.2 中間評価

6回目のセッション終了時に中間評価を行った。中間評価の内容と結果は表5のとおりであった。

設問1の評価値はほぼ中間値に近いことから、難易度としては受講者にとってちょうど良いものであったと考えられる。また、設問2及び設問3の評価力は、学んでいる戦略と里親養育の関連度については4.25であったのに比べて、家庭での実践については3.50と比較的低い数値となっている。これは、プログラムを受講して学んだことは養育に関連するものと認識しつつも、家庭で実践することについて難しさを感じてい

評価

セッション2 行動への影響：先行する出来事および結果

#### セッション2の評価

氏名 \_\_\_\_\_  
それぞれの項目についてのあなたの評価を、1=悪い、5=とても良い、の間の数字を○で囲み示してください。

##### 1. 家庭での観察のフィードバック

悪い	1	2	3	4	5	とても良い
----	---	---	---	---	---	-------

##### 2. アタッチメントについての考え方とエクササイズ

悪い	1	2	3	4	5	とても良い
----	---	---	---	---	---	-------

##### 3. きっかけと報酬をみるための観察

悪い	1	2	3	4	5	とても良い
----	---	---	---	---	---	-------

##### 4. 社会的学習理論についての情報

悪い	1	2	3	4	5	とても良い
----	---	---	---	---	---	-------

##### 5. 報酬についてのエクササイズ

悪い	1	2	3	4	5	とても良い
----	---	---	---	---	---	-------

##### 6. 肯定的行動と問題行動の観察に関する家庭での実践

悪い	1	2	3	4	5	とても良い
----	---	---	---	---	---	-------

##### 7. 今日のセッションで一番楽しかったことは何ですか？

##### 8. 今日のセッションで一番つまらなかったことは何ですか？

##### 9. その他のコメント

ありがとうございました。

フォスタリングチェンジ

るのではないかと思います。



表4 各セッションにおける評価の平均値

	題目	評価の平均値 (満点=5.00)	自由記述
1	グループを創設し、子どもの行動を理解し記録する	4.54	楽しい：グループの方といろいろ話げできた。
2	行動への影響：先行する出来事及び結果	4.58	楽しい：ビデオでの児への関わり方が勉強になった。／里子の様子を話すとき。 つまらない：内容が理解しにくいとき。
3	効果的に褒める	4.58	楽しい：代替行動を選ぶことで声掛けが変わるということと、褒めた後に批判しないことに注意すること。／前回より行動のきっかけと報酬を考えやすくなったこと。 つまらない：自分が褒められたことを素直に喜べないこと。
4	肯定的な注目	4.56	楽しい：アテンディングのロールプレイでついついしてしまっている行動がよくあったのが分かった。
5	コミュニケーション・スキルを使い、子どもが自分の感情を調整できるように支援する	4.60	楽しい：感情を表したときの聞き方。／受講者の近況を聞いたこと。 つまらない：(エクササイズの) 子ども役で自分の感情を素直に出すのが難しいと思った。
6	子どもの学習を支援する	4.56	楽しい：学習スタイルの違いについて。
7	ご褒美およびご褒美表	4.45	楽しい：ご褒美の社会的と有形的の違いが分かった。／攻撃的な返事を考えること。ストレス発散になった。
8	指示を与えることおよび選択的無視	4.75	楽しい：無視のロールプレイング。 つまらない：実践練習が難しい。
9	ポジティブ・ディシプリン（肯定的なしつけ）及び限界の設定	4.25	楽しい：しつけと罰について改めて考えさせられた。 つまらない：しつけについての思い出。
10	タイムアウトおよび間接的方略	4.52	楽しい：ストップ・プラン・アンド・ゴーを考えること。／問題解決の方法がたくさんあったこと。 コメント：タイムアウトの取り入れは難しそう。
11	エンディングおよび総括	4.64	楽しい：復習のセッション。

表5 中間評価の結果

評価項目	評価値
(設問1) これまでのセッションは全般的に (1=難しすぎた、3=大体よかった、5=簡単すぎた)	3.25
(設問2) これまでに学んだたくさんのアイディアをこれまで家庭で実践できていますか？ (1=ほとんどできていない、5=かなりできている)	3.50
(設問3) 現在学んでいるストラテジー（方法）はあなたの里親養育に関連するものですか？ (1=ほとんど関連していない、5=とてもよく関連している)	4.25

### 3.2.3 最終評価

最終セッション（セッション12）修了後に最終評価を行った。

最終評価の内容と結果については、2019年度に、全国22か所において受講者125名に対して実施された結果と比較を行った。

まず表6に示す「最も役に立つと思った考えやスキルについて」である。

最も役に立つと思った考え方やスキルについては、全国と同様に「選択的無視」が最も多く、全ての受講者が最も役に立ったと回答した。「選択的無視」については、セッション8において取り扱った内容であったが、(1)に示すとおり、11回のセッションでセッション8は4.75と最も高い数値となっており、受講者の関心や理解度が高い内容であったと思われる。

表6 最も役に立つと思った考えやスキル(1人5つ回答)

高知県 (n=4)	全国 (n=110)
選択的無視 4	選択的無視 61
ご褒美及びご褒美表 3	アテンディング 60
アテンディング 2	効果的に褒める 59
効果的に褒める 2	ストップ・プラン・アンド・ゴー 43
家族のルール 2	ご褒美及びご褒美表 37

出典：フォスタリングチェンジプログラム 2019年度実施報告：一般社団法人無憂樹（全国のみ）

一方で、全国の回答では4番目に多い「ストップ・プラン・アンド・ゴー」については、高知県の受講者は1人も挙げていなかった。

次に、「子どもの行動の変化」について、である（5段階評価で、1=ひどくなった、2=ややひどくなった、3=変わらない、4=よかった、5=大変よかった、とした）。

子どもの行動の変化については、全国（n=107）が平均4点であったのに対し、高知県（n=4）は平均4.5点と肯定的な変化が見られた受講者が多かった。

変化した子どもの具体的な行動として、「癪癪が減った」、「行動の激しさが以前と比べてなくなる」、「自分から学校へ行ける」、「物を壊すことが減った」といった問題行動の軽減が挙げられており、子どもに受講者が実感することができる程の行動変容がみられたことが分かった。

一方で、全国の回答では4番目に多い「ストップ・プラン・アンド・ゴー」については、高知県の受講者は1人も挙げていなかった。

そして「里親と里子の関係性の変化」について、である（5段階評価で、1=とても悪い、2=悪い、3=普通、4=良い、5=とても良い、とした）。

里親（受講者）と里子の関係性の変化については、全国（n=99）が平均4.25点であったのに対し、高知県（n=4）は平均4.5点と全国平均以上に肯定的な変化を感じた受講者が多かった。

具体的な変化の内容として、「小言を言うことが減り、自分もゆとりができ子どもも安定した」、「少し達観ができるようになった」、「自分自身の言葉の変化や状況によって無視することで、子どもが自分の気持ちを素直に言える」といった選択的無視の手法によって子どもの安定感が増したことが挙げられていた。

「家庭訪問を受けたことでどう役に立ったか」について、表7に示す。

高知県では全ての受講者が、「里親として支援されていると感じた」と回答しており、事前の家庭訪問が受講者にとって有益なものであったと考えられる。

なお、高知県では筆者以外の担当ファシリテーターがプログラム前の家庭訪問のほか、各セッションの前には電話による連絡、また、欠席時には家庭訪問を行い、補講を実施するなど、セッション場面以外でのきめ細かな支援を行った。

家庭訪問などのきめ細かな支援は、受講者自身が支援されていると感じ、結果として表8に示すように、全12回のセッションにも関わらず参加率が95.8%と全国と比較しても高い割合となったことにつながっているものと考えられる。

表7 家庭訪問を受けたことでどう役に立ったか（複数回答）

	高 知 県 (n=4)	全 国 (n=111)
a. 全く役に立たなかった	0 (0.0%)	2 (1.8%)
b. コースに参加することに自信が持てた	1 (25.0%)	43 (38.7%)
c. 里親として支援されていると感じた	4 (100.0%)	60 (54.1%)
d. ファシリテーターは、里親として、私が必要としていることに興味があると分かった	0 (0.0%)	46 (41.4%)

出典：フォスタリングチェンジプログラム 2019 年度実施報告：一般社団法人無憂樹（全国のみ）。

表8 2019 年度に FCP を実施した自治体ごとの参加率

95%以上	札幌 (98.6%)、広島 (98%)、茨城② (96.6%)、横浜 (96%)、高知 (95.8%)、大阪 (95.6%)
90%以上	福岡 (94%)、山口 (93.8%)、熊本 (93%)、長野 (92%)、和歌山 (92%)、長崎 (92%)、佐賀 (91%)、宮城 (90%)、茨城① (90.0%)
80%以上	京都 (89.58%)、久留米 (86%)、三重 (85%)、鳥取 (84.2%)、山梨 (83.2%)、東京 (83%)
70%以上	千葉 (78.6%)

注：茨城は2019 年度に2回実施

出典：フォスタリングチェンジプログラム 2019 年度実施報告：一般社団法人無憂樹。

## 4. 考察

2019 年度に高知県で実施した FCP について、セッションごとの評価平均値が概ね4.5点を超えていたこと、最終評価について全国と比較しても評価が高かったことを踏まえると、受講者である里親にとって有益なプログラムであったと考えられる。

FCP の導入にあたっての課題の一つとして、里親のニーズとして高いと思われる子どもの問題行動への対処法についてのみ焦点があたり、「肯定的な注目」を中心とする FCP が求めているプログラム効果が達成できないのではないかと指摘した。

最終評価の項目のうち、「(ア) 最も好きだったこと」において、「褒めること」、「ご褒美シール」が挙げられており、これらは、子どもの行動に対して肯定的な注目するものであって、FCP の考え方を体系図にした「フラワーパワー（図2）」の中でも基本となる考え方である。そのため、この考え方については、里親が受託している子

どもに対して肯定的な注目を与えることを促すだけではなく、プログラム中において、里親の発表をファシリテーターが褒める、ご褒美シールを貼るなど、里親の行動に対して肯定的な注目を行うことで、よりその理解の定着を図ろうと意図してプログラムを実施してきた。プログラム中の里親からの発表の中でも、実際に受託している児童に対して肯定的な注目を行い、子どもの行動の変化や自身の変化が感じられたという感想が述べられており、里親のニーズとして少なからず問題行動への対処法はあったとしても、FCP が求めているプログラム効果は達成できたものと考えられる。

なお、里親のニーズとしてあった子どもの問題行動についても軽減が見られている。これについては、実際に問題行動が減少したのか、あるいはプログラム受講前までは問題行動と感じていた子どもの行動が、プログラム受講後には気にならなくなった（問題行動と感じなくなった）ことによるものかは判然としないが、少なくとも里親自身が肯定的な変化を感じたことは、十分な効果であったと思われる。

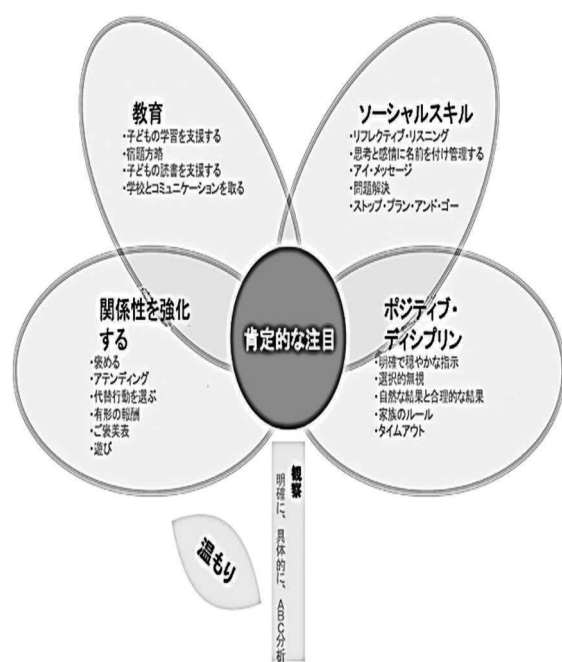


図2 フラワーパワー

出典：フォスターリングチェンジ（ファシリテーターマニュアル）。

また、毎週参加する全 12 セッションというプログラムに対して、参加率が 95.8%と高かったことについては、里親自身が参加することにメリットを感じ、そのモチベーションを維持し続けることができたためと考えられる。

その要因としては、実施団体である里親家庭サポートセンター結いの実において、プログラム前の家庭訪問などを通じて、里親の不安感の解消に努めたことが考えられる。FCP の実施マニュアルでは会場設定にあたっては「里親を温かく受け入れる」ことが記載されているが、季節に応じた飾り付けや手書きのウェルカムボード、飲食物の提供など、プログラムに参加した里親の緊張感を和らげることができるような配慮がなされており、プログラム以外の部分が参加率に寄与しているものと考えられる。



写真1 会場設定の様子

次に、発達障害のある子どもに対する FCP の有効性について考察する。



今回受講した里親が受託している子どもについては、発達障害の確定診断を受けていた子どもはいなかった。そのため今回の実施結果では、発達障害のある子どもに対する FCP の有効性についての検証には至らなかった。

ただし、発達障害の様相を呈する子どもを受託している里親が参加しており、当該里親はプログラム受講前に見られていた子どもの問題行動が、プログラム受講後には減少したと感じていた。このことのみをもって有効性を論じることにはできないが、発達障害のある子どもに対して FCP の可能性を示唆するものであり、この点については、2020 年度以降の実施について引き続き検証を行なっていきたい。

以上のように、里親に対する専門的な研修が限られている中で、FCP が有効な研修の一つとなりうる可能性がある。そして、今後、高知県において里親養育を推進していくにあたっては、里親の質の向上を図るためにも FCP を継続して実施していくことが望まれる。そのため

には、実施団体やファシリテーターに、プログラムを遂行できるスキルはもとより、プログラム以外のきめ細かなコミュニケーションや会場設定における心配りなどが求められていると考える。

一方で、COVID-19 の感染拡大に伴い、会場における飲食物の提供や、プログラム中のエクササイズなどに制限を設けなければならない可能性がある。2020 年度以降の FCP の実施にあたっては、こういった点にも配慮しつつ、受講者へのきめ細かなサポートや緊張感を和らげるような配慮を行なっていかなければならないだろう。

## 謝辞

本研究の実施にあたりご協力頂いた里親の皆様、FCP の実施及び資料提供をいただいた里親家庭サポートセンター結いの実に感謝いたします。本研究は科研費（18K02793）の助成を受けたものである。

## 註

<sup>1</sup> 村山真一・是永かな子(2020)「里親家庭支援としてのフォスタリングチェンジプログラムの導入の可能性」『高知大学学校教育研究』第 2 号,pp.125-134.

## 参考文献

・フォスタリングチェンジプログラム実施報告：SOS 子どもの村 JAPAN Webxite：(2016 年度)  
<http://nippon.zaidan.info/seikabutsu/2016/00494/mokuji.htm>(2020/11/19 参照).  
 (2017 年度)  
<http://nippon.zaidan.info/seikabutsu/2017/00669/mokuji.htm>(2020/11/19 参照).

(2018 年度)

照).<http://nippon.zaidan.info/seikabutsu/2018/00394/mokuji.htm>(2020/11/19 参照).

・フォスタリングチェンジプログラム 2019 年度実施報告：一般社団法人無憂樹.

・カレン・バックマン、キャシー・ブラッケビー、キャロライン・ベンゴ、カースティ・スラック、マット・ウールガー、ヒラリー・ローソン、スティーヴン・スコット著、上鹿渡和宏、御園生直美、SOS 子どもの村 JAPAN 監訳(2017)『フォスタリングチェンジ 子どもとの関係を改善し問題行動に対応する里親トレーニングプログラム（ファシリテーターマニュアル）』福村出版.

